

## ところ会 10 月行事案内

平成 27 年度 第 10 回テーマ：

**三富方面を歩く(行程:約 7km)**

**(多聞院、木の宮地藏堂、多福寺、甘藷始耕地の碑、八幡神社)**

中富の多聞院から上富(三芳町)を通って南永井、エステシティまで歩きます。

記

■日 時：平成 27 年 10 月 15 日(木)

■集合場所：下記①または②

①ところバス 富岡循環コース(右回り)に乗って「多聞院通り西」で下車して下さい。

9:20 航空公園始発  
9:30 新所沢駅  
9:51 下富片側  
9:55 多聞院通り西

**注意**

交通渋滞によりバスの運行時間は遅れることがあります。  
下見の時は約 15 分遅れました。

ところバスは大回りしますので、自宅に近いバス停から乗車下さい。  
ところバスのルートと時間表は 8 頁参照下さい。

②神明社(多聞院の隣)に 10:00

所沢駅東口から 9:10 発大宮駅西口行きに乗り、地藏前バス停下車(9:32)、徒歩約 1200m (このルートの方は事前に連絡下さい)

■見学場所及び時間

航空公園駅(9:20)…ところバス…多聞院通り西(9:55)⇒多聞院・神明社⇒木の宮地藏堂⇒多福寺⇒島田家長屋門⇒昼食：手打ちそばうどん富⇒旧島田家住宅⇒島田伴完寺子屋跡⇒正徳の庚申塔⇒さつまいも始耕地の碑⇒南永井八幡神社⇒エステシティバス停  
帰路：エステシティ所沢バス停－航空公園駅－(所沢駅東口)  
所沢駅東口行きバスは時間による

■昼食場所：手打ちそばうどん富

次のメニューから予め選択、いずれもざるそばがついて 1080 円

①天井セット、②かつ丼セット、③マグロ丼セット

## ■散策先簡単ガイド

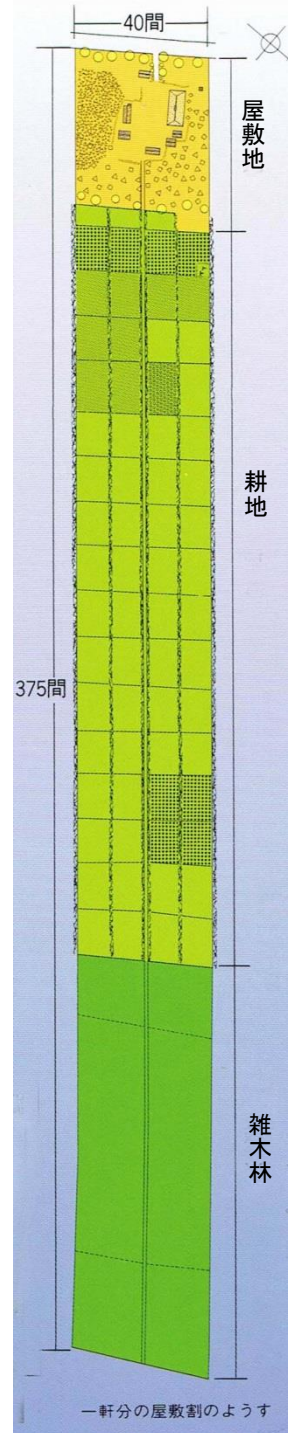
【三富新田】: 武蔵野台地はローム層が厚く堆積した台地なので痩せた土地で、水位も深い。開拓されるまでは周辺村々の秣場（まぐさば）に利用されていた。元禄7年（1694）に川越藩主となった柳沢吉保は、荻生徂徠の建議を入れ、川越藩士の曾根権太夫に命じて藩内のこの地を開拓させた。短冊型に並んでいる地割が特徴です。元禄9年

（1696）の検地による屋敷の戸数は、上富91戸、中富40戸、下富49戸の計180戸。この整然とした地割と景観は現代まで良く残され、旧跡として「埼玉県指定文化財」に指定されています。三富新田とは、上富（かみとめ）・中富（なかとみ）・下富（しもとみ）の三地区の総称であり、現在の上富は三芳町に、中富・下富は所沢市に属しています。

### 【三富新田の地割】

三富新田の開拓は幅6間の道を縦横に開くことから始められ、この道の両側を間口40間、奥行375間の短冊状に区画し、一戸あたり5町歩（約5万㎡）ずつ配分しました。右の1軒分の屋敷割（上富の例）からも分かるように、道路に面した表側を屋敷地として、その次に耕地、一番奥に雑木林としました。「一人前の男子とは、一日に5畝の畑を耕せるものをいう」との話があるように、耕地は一日一人分の労働範囲の目安となる5畝単位に区画されました。雑木林にはナラ・エゴ・赤松などが育てられ、防風林として、薪、堆肥となる落葉の供給源として農民の生活にはなくてはならないものでした。いくつかの区画に分けられた雑木林は、15～25年をサイクルとして雑木の伐採と若木の育成が行われました。

現在、三富地域は、埼玉県指定旧跡「三富開拓地割遺跡」として、その景観保存がはかられています。



## <神明社> 三富・富岡総鎮守 神明社（とめの神明様）

柳沢吉保は開拓農民の檀家寺として上富に多福寺を、中富に祈願所・鎮守の宮として毘沙門社（多聞院）を創建しました。その後、宝暦 11 年（1761）に神明社を勧請しましたが、明治元年の神仏分離令により西側は神社（神明社）、東側は寺院（多聞院）としました。神社であった毘沙門社は現在は毘沙門堂と言われています。

明治 45 年には、享保年間に幕府直轄領として開発された所沢新田、久米新田、神谷新田、堀兼新田、北田新田、岩岡新田にある七社が合祀されました。その他に、境内社として**甘藷乃神**（いものかみ）があります。ここには、さつま芋の導入・普及に努めた南永井村の名主、**吉田弥衛門**と**青木毘陽がいものかみ様**として祀られています。

なお、埼玉県史蹟保存として三富開拓遺跡に指定されています。

【焼き芋祭】1月1日、2日と豊作の年は、地元の農家の方の奉納により5台の石焼き芋の釜で参拝者に2,000本の焼き芋を無料で配るそうです。

## <多聞院・毘沙門堂>

元禄 9 年（1696）に柳沢吉保が三富開拓農民の祈願所とするため、毘沙門社として建立したものです。毘沙門天とは、多聞天と同じことで仏教・仏像では武神・軍神です。多聞院は毘沙門社の別当寺。

境内入口にたてられた木柱には「武田信玄公守本尊毘沙門天」と書きつけられています。柳沢吉保が**武田信玄の守り本尊**だった高さ一寸四分（約 4cm）の**純金製毘沙門天**を入手し、この毘沙門堂の本尊としたのです。お堂の前に虎の形をした**狛犬**を左右に配しています。そして正面幕には四つ割菱（武田菱）がはっきり認められます。多福寺も多門院も菱紋を表に掲げています。柳沢氏は徳川家に使えた武田遺臣で、甲斐源氏武田氏一門である甲斐一条氏の末裔を称しています。



狛犬（寅）

多聞院はボタンで有名ですが**日本クマガイソウ**や**ユキモチソウ**など珍しい花々も咲きます。また、紅葉も見事です。



クマガイソウ



ユキモチソウ



身代わり寅

**【身がわり寅】** 毘沙門天の化身とされる寅に、身に降りかかる災いを託して奉納するというもの。毎年5月1日には毘沙門天の化身とされる虎に因んで「寅まつり」が催されます。

**【鬼の悟りの像】** 近年信徒の石工が、鬼が悟ってじっと我慢をしている姿を彫ったもので、わがままを通す人達への戒めの願いが込められているそうです。

**【柳沢吉保】** 上野国館林藩士・柳沢安忠の長男として生まれる。延宝8年(1680)、館林藩主の綱吉が家綱の將軍後継として江戸城に入ると館林家臣である吉保も幕臣となり、小納戸役に任ぜられる。綱吉の寵愛により頻繁に加増され、出羽守に叙任される。

元禄元年(1688)新設された側用人に就任。禄高も1万2千石となり大名に昇る。元禄7年(1694)川越藩主となる(石高7万2千石)。同年老中格と侍従を兼帯。元禄11年大老。宝永元年(1704)甲府藩15万石の藩主となる。三富の開発は重臣であった曾根権太夫に行わせた。



**＜木の宮地蔵堂＞** 木の宮地蔵からは三芳町です。

「富(とめ)の地蔵」とも呼ばれ、古くから人々に親しまれてきました。その縁起は、坂上田村麻呂が北国遠征の際、道に迷ったところを地蔵菩薩に助けられ、その加護に感謝して建立したという話が江戸時代に書かれています。真相については明らかではありません。江戸時代まで何度かの荒廃や焼失などの記録がありますが、現在の堂は安永6年(1777)に再建されたものです。その本堂内には木造の地蔵菩薩が安置され、内陣の格天井(ごうてんじょう)には107枚の植物画が描かれています。当時、総ケヤキ作りの見事な地蔵堂が建設できたということは、三富新田の開発で豊かになった事を示しています。また、本堂の裏にまわると石の地蔵尊が祀られた**奥之院**があります。



木の宮地蔵は縁結び、子授け、子育てのお地蔵様として信仰されており、堂内には多数の絵馬が奉納されています。毎年、4月23・24日と8月23・24日は縁日で、出店が並び大勢の人が参拝に訪れます。

### **【甘藷の碑】**

三富の芋は所沢市南永井の吉田弥衛門により広められましたが、三芳町にも記念碑を建てようということで建てられたのでしょうか？青木昆陽を讃える碑です。傍に四阿(あずまや)があるのでそこで一休みしましょう。



## ＜多福寺＞ 三富開拓農民の菩提寺

三富新田の開拓農家の菩提寺として柳沢吉保が建立。三富新田に入村した農家の菩提寺は、上富村が亀久保村（現ふじみ野市）地蔵院、中富村・下富村は大塚村（現川越市）西福寺としていましたが、多福寺建立によって三ヶ村とも菩提寺を多福寺とし、三富新田の農家の精神的な支えとなりました。



正月の5日間のみ、遠州流東好枯山水の庭園を拝観できます。（有料）

【鐘楼堂】川越藩士曾根権太夫が寄進した銅鐘（県指定文化財）がある。

【元禄の井戸】開拓の時に大きな問題となったのが飲料水です。これを得るため上富に4ヵ所の井戸を掘りました。当時掘られた井戸で今日も残されているものは多福寺境内にあるのみです。

## 【田中王堂の墓】

中富に生まれ青山学院、東京専門学校（早稲田大学の前身）、同志社、及びケンタッキー大、シカゴ大に学び思想界に独自の道を拓いた。代表的著書「書齋より街頭へ」に示す通り日本で最初にプラグマティズム（実践主義）を唱えた。実践を行った弟子としては二宮尊徳、大隈重信を上げている。



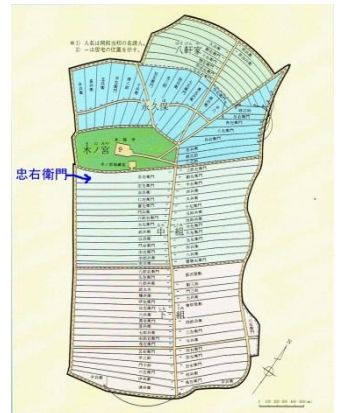
墓所は多福寺にあり、碑文は首相石橋湛山の撰文による。

……平塚宗臣氏の講演「近代を駆け抜けた所沢人」より

## ＜島田家長屋門＞

三富新田の開拓には、多くの人々の力が必要であったので、川越藩では近隣の村々から農民を募って開拓にあたらせました。こうした農民の中で、現在の大井町亀久保から移り住んで、上富村の名主役を命じられたのが島田忠右衛門でした。

島田家には、三富新田開拓以前の武蔵野の秣場（まぐさば・採草地）をめぐって争われた裁判の判決文書が保存されています。また島田家の門は長屋門と呼ばれるもので、江戸時代、武家の屋敷に使われ、農民には名主など一部のものだけが許された門です。



上富の地割り

## 昼食 手打ちそばうどん富にて

### <島田家住宅>

旧島田家住宅は、およそ 180 年前の江戸時代文化・文政期（1804～1829）に建築されたと考えられる茅葺屋根の民家住宅です。畑作新田として知られる三富の開拓が、さつまいもの導入により豊かになったことを証明してくれる大型の家屋であり、近郷農民の子弟を集めて寺子屋を開設していた時期もあるそうです。

しばらく先に進むと信号の手前 OIMO Café が 三富開拓地地割遺跡の碑 あります。ほぼ自前の野菜を提供するところで最近女性に人気の店だそうです。ランチ時は混むので予約をしてから行った方が良いでしょう。



島田家住宅内  
三富開拓地地割遺跡の碑

### <島田伴完寺子屋跡>

上富村では天保元年(1830)から上富小学校が開設される明治 7 年 (1874) まで島田伴完（伴左衛門）によって寺子屋が開かれ、近郷の村々から延べ 300 人もの師弟が集まりました。

六間道（ろくけんみち）に面して立つ伴完翁寿蔵之碑は門人たちが師匠の長寿を祝って明治 12 年に建てたもので、台石には寿蔵碑建立に参加した 275 名の門人の名が刻まれています。

因みに、北野村の澤田泉山の北広堂には 3000 人の門弟がいたと言われていいます。

### <正徳の庚申塔>

この庚申塔は江戸時代中期の正徳 4 年（1714）に上富村の庚申講中 11 人によって建立されたもので三芳町では最も古いものです。江戸時代には、集会を開き酒食に興じることはきびしく制限されていたので、信仰を名目として集える庚申講が各地で盛んに行われるようになりました。



### <さつまいも始耕地の碑>

さつまいも(甘藷)は江戸時代初めに日本に伝来し、九州に広まったと伝えられます。痩せた土地でもよく育ち旱魃にも強い救荒作物として、八代將軍吉宗は青木昆陽に指示して栽培を奨励。享保 20 年（1735）に初めて関

東で栽培に成功し江戸近辺でも栽培されるようになりました。

この地南永井村は、江戸時代に開拓された新田ですが、地力が低いうえ灌漑用水が乏しかったため夏の早魃には特に弱い土地でした。

青木昆陽から16年後の寛延4年(1751)、名主の吉田弥右衛門は息子を上総国に派遣して、200個のさつまいもを買い付け、栽培をはじめました。これが周辺の村にも伝わって広く栽培されるようになり、やがて近くの川越から舟運によって江戸に出荷するようになりました。このため、集散地である川越の名を取って「川越いも」の名で知られるようになりました。



### <南永井八幡神社>

南永井八幡神社は、延宝年間(1673-1681)に当地を開発した上州新田郡下田中村の(吉田)市郎左衛門が屋敷神として創祀、一村を形成した折、新田郡下田中村八幡の分霊を勧請し南永井村の鎮守としたといえます。



水子道の八幡神社鳥居

### <水子道(みずこみち)>

南永井八幡神社の鳥居が立っている道是水子道といえます。所沢と舟運のあった新河岸川とを結ぶ道は志木へ行く「引又道」と「水子道」があります。「水子道」は現在の富士見市水子と所沢を結ぶ道です。

### <帰路>

最後に南永井八幡神社からエステシティ所沢バス停までの約1.7kmを歩きます。この道は縦長の地割りが良く分かる道です。

エステシティ所沢バス停時刻表 (航空公園駅行き)

14時 **10** 27 40 **57**

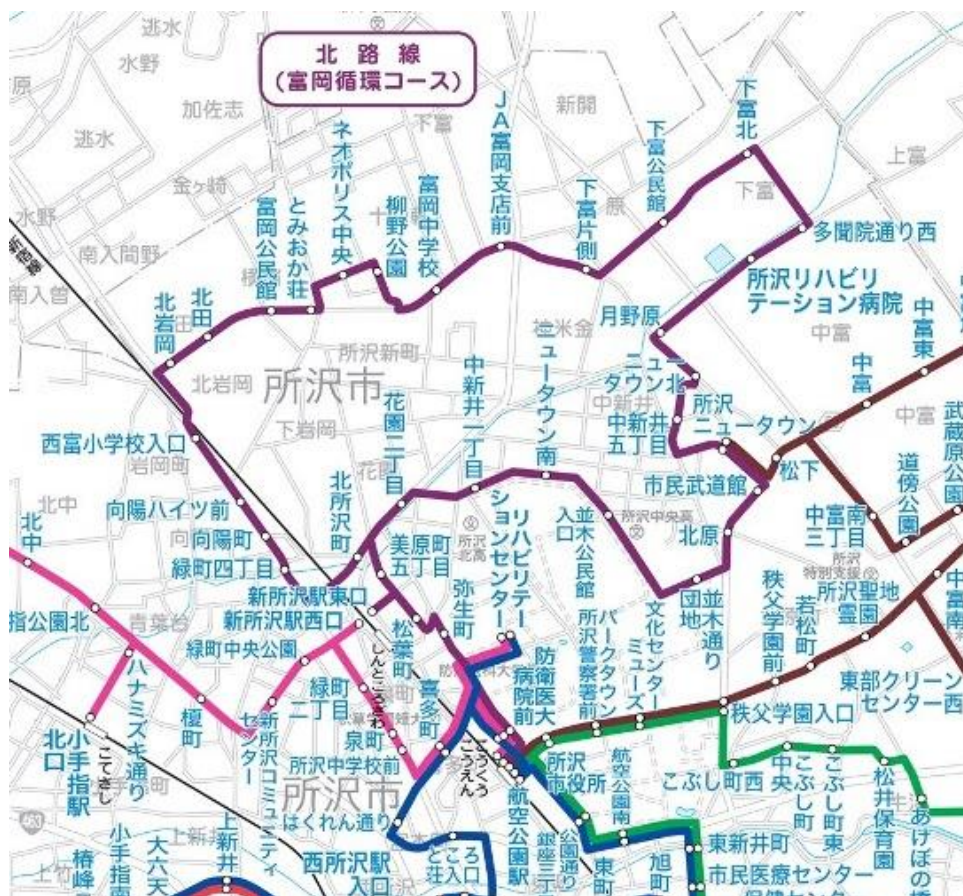
15時 10 **25** 40 **55**

16時 09 27 40 54

太字は 航空公園駅経由所沢駅東口行き



## ところバス 富岡循環コース



◆乗車賃：ところバスの特別乗車証を持っている人は100円、持っていない人は航空公園～多聞院通り西まで260円です

### ◆時刻表

- 航空公園駅 9:20—防衛医大病院前 9:21—リハビリテーションセンター 9:24  
 —弥生町 9:26—松葉町 9:27—新所沢駅東口 9:30—三原町五丁目 9:32  
 —北所沢町 9:33—緑町四丁目 9:36—向陽町 9:37—向陽ハイツ前 9:38  
 —西富小学校入口 9:39—北岩岡 9:41—北田 9:42—岡公民館 9:43  
 —とみおか荘 9:44—ネオポリス中央—柳野公園—富岡中学校 9:48  
 —JA 富岡支店前 9:49—下富片側 9:51—下富公民館 9:54  
 —多聞院通り西 9:55